

分科会 I 第2分科会

テーマ「深く考え、議論する道徳科の指導と評価」

提 案 者 三原市立第五中学校
司 会 者 三原市立第三中学校
記 録 者 三原市立本郷中学校
指導助言者 広島県西部教育事務所芸北支所

1 はじめに

本研究は、三原市内公立中学校10校から集まった有志で構成される三原市小中学校教育研究会「中学校道徳部会」（以下、道徳部会という）による2年間の研究である。部会員は、各校の道徳教育推進教師を含み、学校の中心となって道徳教育を推進している教職員である。（昨年度16名、今年度17名）

今年度の小学校に続き、次年度から中学校で「特別の教科 道徳」（以下、道徳科とする）が全面実施となる。本部会では、昨年度から先行実施の取組として、各校で「深く考え、議論する道徳科」の授業になるよう指導と評価の研究を進めている。

2 研究のねらい

道徳部会では、昨年度から研究テーマを「深く考え、議論する道徳科の指導と評価」と設定している。道徳科の授業を「深く考え、議論する」ものにするために、授業の指導過程と評価の具体的な方法について研究することをねらいとした。特に、道徳科の評価において、どのように生徒の学習状況を把握し、生徒が自らの成長を実感することができる評価をしていくかという点に重点を置くこととした。

3 研究の内容

研究の内容・流れは次の通りである。

	月 日	内 容
平成29年度	6月15日	前年度まとめ、部会組織確認、研究テーマ確認、年間計画
	8月3日	模擬授業「宅配便が着いた日に」【B(7)思いやり・親切】 (三原市立第五中学校 坂本光基教諭) 道徳の評価①(演習) 指導講話(三原市教育委員会 久藤玄明指導主事)
	1月19日	公開授業「キャッチボール」【C(10)遵法精神、公德心】 (三原市立本郷中学校 若杉厚至教諭・片山新教諭) 研究協議、指導助言(大阪教育大学 藤永芳純名誉教授)
	2月15日	年間のまとめ
平成30年度	5月17日	前年度まとめ、部会組織確認、研究テーマ確認、年間計画 広島県中学校道徳教育研究大会について
	8月3日	小学校より情報提供「道徳の教科化について」 (三原市立本郷小学校 溝上孝弘教諭) 広島県中学校道徳教育研究大会に向けて 道徳の評価②(演習)

4 研究の実際

(1) 授業研究

① 模擬授業

昨年度夏季休業中、道徳部会の研修として模擬授業を行った。広島県立教育センターの道徳教育「児童生徒の『主体的・対話的で深い学び』につなげる指導と評価」講座（6月28日実施）における講義・演習の中で行われた宮里智恵教授（広島大学大学院教育学研究科）の模擬授業をもとにした。内容項目【B（7）思いやり・親切】「宅配便が着いた日に」（宮里教授の自作教材，研修での使用にあたって許可を得た）の模擬授業で，部会員が生徒役を務めた。

② 公開授業

部会員の所属する中学校の道徳に係る校内授業研究会・公開研究会は，年間計画立案のときに確認し，部会としての参加・研究の場としている。昨年度は，「平成29年度『道徳教育改善・充実』総合対策事業 本郷中学校区公開研究会」，第2学年の道徳公開授業を参観した。内容項目【遵法精神，公德心C(10)】，「キャッチボール」（正進社）を教材としたTT指導。

③ 深く考え，議論する指導過程

これらの授業研究を通して，深く考え，議論する指導過程の工夫について，次のことが有効と考えられると整理した。

ア 導入（生徒にとってタイムリーな部活動と関連した話題）

イ 教材提示（授業者の朗読だけでなく，教材を生徒に渡さず語る。会話部分をT1・T2あるいは授業者・生徒の対話で再現する）

ウ 発問（主人公の立場ではなく，自分だったらどうするかという生徒自身の立場で問う発問）

エ 形態（全体・小グループを使い分け，生徒の意見交流を軸として生徒が他の生徒の意見に対して自分の考えを伝え合う）

オ 問い返し（生徒の反応・意見を受け止めて他の生徒に問い返し，広げて，議論につなげる）

カ ワークシート（記述は中心発問に絞り，自己の考えを振り返ることができる欄も設ける）

キ 評価（生徒の観察・記述等の記録 →活動状況の評価，授業者としての改善に活用）

(2) 評価の演習

① 平成29年度 道徳の評価①

昨年度夏季休業中の研修で，道徳の評価を実際に文章化するという演習を行った。評価材は，1学期に実施した道徳の時間の生徒の感想を数人分ずつ持ち寄ったものを活用した。小グループに分かれ，持ち寄った感想を生徒の活動状況の一部と捉え，評価を文章化した。この演習では，具体的にどのような評価が生徒に自らの成長を実感させ，意欲の向上につながるのかということが議論の中心となった。その中で，道徳教育に係る評価の在り方に関する専門家会議の資料「道徳の時間の所見例」（平成27年12月）が話題に上った。後日，部会内で情報を共有し，部会員が各校での研修に活用した。また，平成30年度の道徳部会の研修でもこの所見例を活用した。

② 平成30年度 道徳の評価②

ア ワークシートの記述

昨年度の演習との違いは2つある。1つは，各校から持ち寄った評価材である。昨年度は生徒の感想だったが，今年度は1学期に実施した授業のワークシートである。その中には，発問に対する意見欄もあり，感想だけでは見取れない生徒の活動状況を把握できるような記述が含まれて

いた。具体的には、中心発問に対する意見、授業を通して考えたこと、授業の中で他の生徒の意見を聞くことを通して自分の考えがどのように変わったか等の記述である。

イ 参考資料「学期末アンケート」の活用

もう1つは、1学期の授業の中で、生徒にとってしっかり考え印象に残っている授業をアンケートで問い、その授業のワークシート等を授業者が評価する際の参考資料にしたことである。(下図は三原市立第五中学校が1学期末に実施したアンケート) 1学期に実施した道徳授業の教材名を一覧表にし、しっかり考えたもの、印象に残っているものに○印を付け、その授業を通して考

2年生 1学期の道徳を振り返って	
()組 ()番()	
道徳の授業を振り返ります。次に挙げる9つの中で、「自分としてはしっかり考えた。印象に残っている。」という授業を1～2つ選び、左に○印を書こう。 また右の欄には、その授業を思い出しながら、自分が思ったこと・考えたことを簡単に書いてみよう。	
理想の先輩	
習慣をつくる	
ディズニー 掃除の神様	
ナヴォイ劇場	
ロスタイムの続き	
Continue(コンティニュー)	
いっぼんの鉛筆のむこうに	
小遣いをせびる親	
エルトウルル号	

えたことなど覚えていることを書く。その授業のワークシートの記述等を参考にして授業者が評価した。

しかし、三原市内には、「平成30年7月豪雨」による災害のため、予定通りに取り組めた学校と、予定していながら1学期には実施することができなかった学校があった。実施した学校が持ち寄ったアンケートと授業のワークシートを対応させ、部会員が評価を行う演習における評価材とした。

ウ 評価の文章化

アンケートから生徒にとって印象に残っている授業のワークシートに注目し、その記述内容を参考にして、評価(検討前)を書いた。その後、3～4人の小グループで「道徳の時間の所見例」を参照し、気づきと改善点を付箋に書いて検討した。(検討の詳細は次頁)

検討時の意見を生かし、再び評価(検討後)を書いた。検討前・後の評価は、次の通りである。

	生徒A	生徒B
教材・内容項目	ナヴォイ劇場【D(22)よりよく生きる喜び】	アキラの選択【A(1)自主、自律、自由と責任】
生徒の記述	仕事に対する責任とは、使う人のことを考えて、最後まで丁寧に仕上げることだと思った。私は係や日直の仕事も丁寧に最後までできるよう、それを続けられるようにしようと思う。	自分がやりたいと思うことをやる方がいいと思う。けど、僕も友達と一緒にになりたいからどちらを選べばよいか分からなくなる。僕は今、自分のやりたいことを選びたいと思う。
評価(検討前)	自分自身の生活を振り返り、今後の活動に生かそうとする思いがうかがえました。「ナヴォイ劇場」では、海外で勤労する日本人の言動から、仕事に対する意欲のもち方、取り組み方、自身の役割について理解しています。	道徳のワークシートを読むと、自分の中でしっかり考えていることが伝わってきます。「アキラの選択」では、「友達と一緒にいたい」という気持ちも踏まえた上で、自分のしたいことを大切にするとあり、頼もしく感じました。
検討時の意見	本人のキーワードを使って書くと、どのように成長しつつあるか、保護者や本人に伝わりやすいのではないか。	生徒の心の揺れを受け止めた表現にするとよい。「頼もしく」と温かい言葉で生徒も嬉しいはず。概要→具体という流れが伝わりやすい。
評価(検討後)	自分自身の生活を振り返り、今後の活動に生かそうとする思いがうかがえました。「ナヴォイ劇場」では、海外で働く日本人の姿から「 <u>使う人のことを考え</u> 」「 <u>最後まで丁寧に</u> 」仕事を全うする大切さを感じ取り、仕事に対する意欲のもち方、取り組み方について理解しています。	道徳のワークシートを読むと、自分の中でしっかり考えていることが伝わってきます。「アキラの選択」では、 <u>何かを決めるときに自分の気持ちだけで決めることの難しさに気づき</u> 、その上で自分のやりたいことを大切にしたいと考えたことを、頼もしく感じました。

検討の際には、次の3つの視点から意見を出し合った。

- ・授業中に全体の場で発表していない生徒の学習状況を見取るには

- ・授業者が何を根拠として評価したかが生徒・保護者に伝わるには
- ・受け取った生徒にとって次への意欲につながる評価にするには
これらの視点から評価文章を検討し、評価に生かせる工夫を次のように整理した。
- ・生徒の記述の引用、授業の内容項目に係るキーワードの引用
- ・グループでの話し合いにおける発言など、授業での活動の様子の記述
- ・自分自身との関わりで書いている点、今後の自分の行動に生かそうとする点、生徒の道徳的価値の捉え、授業で変容した点や新たな見方ができるようになった点等を取り上げ肯定的に評価
- ・分析的表現でなく、先生から生徒への大切なメッセージとして語りかけるような文体

エ 校内研修への還元

道徳部会では、部会の取組を各校に持ち帰って校内研修に生かすことを確認し、各校で研修を進めている。三原市立第五中学校では、8月8日、道徳の評価②の演習を生かし、次のような研修を行った。

事前	校内研修の趣旨・内容の周知 担任・学年部でアンケート実施、ワークシートの選定
研修当日	「特別の教科 道徳」の評価について 学年部内のペアで評価作成、相互に検討 「道徳の時間の所見例」を参照し、学年部で気づきを交流 全体交流、今後の確認
事後	年度末までに生徒の評価作成

この校内研修後、次のことを確認し、道徳科評価の試行を継続していくこととした。

- ・今後も生徒の活動状況を把握できるように評価材を収集する。
(毎時間全員の活動状況の記録は困難であるため、手元に置いた名簿・座席表等に記録)
- ・道徳の教材名と印象的なイラスト・写真等を掲示しておき、学期末の振り返りに生かす。
- ・「特別の教科 道徳」中学校全面実施に備え、年度末に評価を文章化し、研修で交流・改善する。



4 成果と課題

(1) 成果

- ① 生徒の記述を活用して道徳科の評価を試行することができた。実際に評価を書いてみることによって、ワークシートの記述だけでなく、授業中の生徒の活用の状況を適切に把握するための評価材が必要だと確認することができ、各校の校内研修・取組に生かすことができた。
- ② 「深く考え、議論する」という視点で、現在まで行ってきた道徳の授業を振り返り、授業の指導過程について協議したことを各校の実践に生かすことができた。

(2) 課題と今後に向けて

- ① 評価材の収集について、具体的な手法を検討・実践する必要がある。また、一つの授業からだけでなく、複数の授業を比較して、生徒が多面的・多角的に考えられるようになったか、自分との関わりで考えられるようになったか等、生徒の成長を見取って評価することも必要である。
- ② 生徒が「深く考え、議論する」授業にするために、小グループ等の授業形態の効果的な活用法、他の生徒の意見と自分の意見の違いに注目して意見を再構築する指導法の研究を続けていきたい。